

ファルコン電子(株)
代表取締役社長

木下 浩彰 氏



力しており、2012年春には横浜本社にもROM自動書き込み工場「横浜書き込みセンター」を設立した。現在、半導体メーカー100社以上をサポートする。代表取締役社

分業体制と異なり、データ書き込み、良品/不良品の仕分け、マーケティング、テーピングなどが同一の自動書き込み装置で作業可能なため、人手が介在する部分が少ない、1工場

たけるようにする。当社では新規デバイスの書き込みに対するソフト/ハードの開発対応が当社が

受けることができる。生産の海外シフトによつて、国内の商社ビジネスが減少しており、日本の商社もそれに伴って海外展開を推進している。そこで、当社がオフライン書き込みサービスを受け付け、海外工場へ指示を出すことで、日本の品質かつ安価なオフライン書き込みサービスを提供する。海外でも商権を確保することが可能となる。なお、4月1日より日

ついで。自動書き込み装置などの生産設備はすべてHill o System社製だ。生産環境も気温の変化の少ない地下にある。静電対策・温湿度管理・防塵管理が施されているので、高品質なオフライン書き込みサービスを実現可能だ。少量多品種に強みを持つ。国内で大量生産が必要な時は長野工場(匠電ROM(株))を活用するなど、お互いに連携を取り合っている。競合はお得な意図があるの

で、設立してまだ日が浅い当社は、新規IC、ソフト/ハード開発が必要なもの、プロテクトが必要なもの、シリアルナンバーをアットランダムで書きたいなどといった、競合には難しい仕事を中心に引き受けている。今後の事業拡大を見据えて、この秋には自動レーザー捺印装置とテープ外観検査装置も導入する予定だ。

ROM書き込みサービスに注力

半導体メーカーとの関係強化

長の木下浩彰氏にオフライン書き込みサービスのメリットや12年度の戦略などを伺った。

——オフライン書き込みサービスのメリットは。

木下 当社では川下のマウンター直前にオフライン書き込みを行っているのですが、テストの予約が必要で通常のテスト書きと比較して時間単価が非常に安価である。また、通常テストでは高い時間単価に加え、設計変更があると再度書き直し

が難しいが、当社は前述の

で全作業を完結できる。そのほか、オフライン書き込みサービスとは直接の関係はないが、当社のロムライターや自動書き込み装置を購入していただいた際、新規デバイス対応の開発費は基本的にいただかないことも特徴だ。ソフトもHP上で無償提供する。

——今年度の戦略を。

木下 引き続き、すでに強いパイプがある半導体メーカーとの関係強化を図る。当社オフライン書き込みサービスはデバイスが要なので、今後も企業訪問や展示会、営業会議などから新デバイスのサンプルをいただき、対応できるROMを拡充していく考えだ。

さらに、今年度は半導体商社との関係をさらに強化して、オフライン書き込みサービスの仕事をいただけるようにする。当社では新規デバイスの書き込みに対するソフト/ハードの開発対応が当社が

本半導体商社協会(DAF S)へ正会員として加入を承認された。今後、当社からのさらなるオフライン書き込みサービスの増加も見込んでいる。



横浜書き込みセンター

——横書き込みセンターの稼働状況に

(聞き手:玄行力記者)

インタビュー